

令和 5 年 1 月 18 日

栗山町ヤングケアラー二次分析結果報告書

小学生

●ヤングケアラーについて、ヤングケアラーという言葉の認知度

・ヤングケアラーは、ヤングケアラーという言葉「聞いたことがあり、内容もよく知っている」3人、33.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」3人、33.3%、「聞いたことはない」3人、33.3%であった。

・ヤングケアラーでない児童(以下:「非ヤングケアラー」)は、ヤングケアラーという言葉「聞いたことがあり、内容もよく知っている」63人、43.2%、「聞いたことはあるが、よく知らない」38人、25.5%、「聞いたことはない」48人、32.2%であった。

「ヤングケアラー」と「非ヤングケアラー」で、ヤングケアラーの認知度に違いはみられない。

I ヤングケアラーと回答した9名について

①ヤングケアラーは、誰をどのような理由で、どれくらいの期間ケアしているか

・お世話をしている人は、「きょうだい」7人、77.8%、「母親」1人、11.1%、「祖父」1人、11.1%である。

きょうだいをケアしているヤングケアラーが最も多い。

・お世話をしている人の世話が必要な理由

「きょうだい」は、「まだ小さいため」5人、55.5%、「食事や服を着たりすることが、自分一人では、できないため」1人、11.1%、「身体や心などに「障がい」があるため」1人、11.1%である。「祖母」は「高齢のため」1人、11.1%、「祖父」は「認知症のため」1人、11.1%である。

年が離れた幼いきょうだいの世話をしているヤングケアラーが多い。

・ケアをしている年数は、「1年」2人、22.2%、「2年」2人、22.2%、「3年」1人、11.1%、「4年」2人、22.2%、「5年」2人、22.2%である。

ヤングケアラーの半数近くが4～5年ケアしており、年数を考慮すると就学前からケアしているヤングケアラーがいることがわかる。

幼いきょうだいの世話をしているヤングケアラーが最も多く、ケア年数は4年から5年の長期にわたってケアをしているヤングケアラーもいる。

②ケアすることによる影響

・学習や生活面に影響がある児童は5人、55.6%、影響がない児童は4人、44.4%である。ヤングケアラーの半数以上は、学習や生活面に影響が出ている。

・ケアすることによって影響が出ている児童の属性(どのような児童か)

家族構成は、母親5人、55.6%、父親4人、44.4%、きょうだい5人、55.6%、祖母3人、33.3%、祖父1人、11.1%である。

ケアすることによる影響が出ている児童は、全員にきょうだいがいる。

ケアしている人は、きょうだい3人、33.3%、母親、祖父母がそれぞれ1人である。ケアしている理由は、「まだ幼いため」2人、22.2%、「食事や服を着たりすることが、自分一人では、できないため」1人、11.1%、「高齢のため」1人、11.1%、「認知症のため」2人、22.2%である。

幼いきょうだいの世話をしていることが分かる。

II ヤングケアラー予備軍(ヤングケアラーになる可能性が高い児童)を対象に分析

・ヤングケアラー予備軍は11人、全体に占める割合は6.9%である。ヤングケアラー9人とヤングケアラー予備軍11人を合わせると、全児童のうち12.6%の児童がヤングケアラー及びヤングケアラーになる可能性が高い児童であることが分かる。

・ヤングケアラー予備軍の児童は、ケアに対して不安を感じているか

「お世話をすることに不安がありますか。」の質問について、「ある」3人、27.3%、「ない」7人、63.6%である。ケアに対して不安を感じていないヤングケアラー予備軍が多い。

・ヤングケアラー予備軍で、ケアすることへの不安の内容は、

「自分の自由な時間が取れなくなるのではないか」2人、18.2%、「学校を休んでしまうのではないか」、「学校を遅刻・早退してしまうのではないか」、「勉強する時間が取れなくなるのではないか」、「眠る時間が足りなくなるのではないか」、「友だちと遊べないことがあるのではないか」、「親やきょうだいが忙しくなるのではないか」、「何をしたいのかわからない」、「これからどうなるのかよくわからない」がそれぞれ1人、9.1%である。

ヤングケアラー予備軍の児童の3割弱はケアに対して不安を感じており、不安の内容は生活や学習のこと等多岐にわたる。

・ヤングケアラー予備軍の児童でケアに不安を感じていない児童は、ケアすることをどのように感じているか

「すごくいいと思う」、「何も思わない」、「困らないようにしたりする」、「自分じゃできな

いからお世話をしてもらったりしているから、自分だったら少し困ることがあるかもしれないけど自分から進んで手伝ってあげたいです。友達と遊びたいけど困っている人を助けるのを優先したいと思います。嫌ではないです。」「助かる」、「少しやってみたいけど、めっちゃやりたいというわけでもない」、「人を助けてあげること」がそれぞれ1人の回答である。

ヤングケアラー予備軍の児童であっても、ケアに不安を感じていない児童は、ケアすることに対しておおむね肯定的なイメージを持っていることがわかる。

・ヤングケアラーの児童のうち、「普段の生活に悩みや困りごとがある」児童はどれくらいいるか

・現在ヤングケアラーでないがヤングケアラーになる可能性が高い「ヤングケアラー予備軍」の児童10人のうち、「普段の生活に悩みや困りごとがある」児童はどれくらいいるか
10人中8人(72.7%)が悩みや困りごとがあると回答し、その内容は、「将来(進路)のこと」4人、36.4%、「自分に自信が持てないこと」4人、36.4%、「友達関係のこと」3人、27.3%、「家庭の金銭のこと」1人、9.1%、「家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)」1人、9.1%である。

ヤングケアラー予備軍の児童は、普段の生活に悩みがある児童が多く、将来(進路)や、自分に自信が持てないことで悩んでいる者が多い。

まとめ：

ヤングケアラーの小学生は5.7%、ヤングケアラー予備軍は6.9%で、両方合わせると12.6%の児童であり、全小学生のうち、1割以上の児童がケアを担っていたり、ケアを担う可能性が高い状況にあることがわかった。

また、中学生のヤングケアラー4.6%、高校生のヤングケアラー4.0%と比べ、小学生のヤングケアラー5.7%の割合は多い。この結果から、小さい子だからケアしていない、ケアできないという発想を変えていく必要があることがわかる。社会ではケアしていないだろう、ケアできないだろうと思われる小さい子が、さらに年少のきょうだいの世話をしている実態がうかがえる。

現ヤングケアラーは年の離れたきょうだいの世話を長期にわたりしている児童も見られる。こうしたケアによって、学習や生活面に影響がでているケースも見られることから、年少のきょうだいのいる世帯については、常に「ヤングケアラーかもしれない」という視点を持つことや、生活面及び学習面について個別に状況を把握する必要がある。

ヤングケアラーになる可能性の高い「ヤングケアラー予備群」の児童は、進路、将来のことや自分に自信が持てず悩んでいる児童が多いため、安心して学校生活を送れるよう、ヤングケアラーのことや生活面、福祉介護の知識や相談窓口などの情報を知ってもらうこ

とが重要であると考えられる。また、「ヤングケアラー予備軍」であっても、ケアに不安を感じていない児童は、介護に肯定的なイメージを持っているので、より具体的に介護や障がい、病気に負のイメージを持たないように、正しい知識を学び、感性を育む場面を設ける必要がある。よって、学校現場で介護や福祉について学習を行うことが、児童にとって、その理解を深めるために重要であるということが示唆される。

中学生

●ヤングケアラーについて、ヤングケアラーという言葉の認知度

・ヤングケアラーは、ヤングケアラーという言葉「聞いたことがあり、内容もよく知っている」5人、83.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」1人、16.6%、「聞いたことはない」0人、0%であった。

・非ヤングケアラーは、ヤングケアラーという言葉「聞いたことがあり、内容もよく知っている」84人、51.1%、「聞いたことはあるが、よく知らない」54人、31.6%、「聞いたことはない」28人、16.1%であった。

「ヤングケアラー」は「非ヤングケアラー」と比べ、ヤングケアラーという言葉の認知度が高い傾向にある。

I ヤングケアラーと回答した8名について

①ヤングケアラーは、誰をどのような理由で、どれくらいの期間ケアしているか

・お世話をしている人は、「きょうだい」4人、50.0%、「母親」2人、25.0%、「祖父」2人、25.0%、「祖母」1人、12.5%である。きょうだいのケアをしているヤングケアラーが多い。

・お世話をしている人の世話が必要な理由

「きょうだい」は、「まだ小さいため」4人、50.0%である。「母親」は「高齢のため」、1人、12.5%、「病気やけがのため」1人、12.5%、「祖母」は「高齢のため」1人、12.5%、「病気やけがのため」1人、12.5%、「祖父」は「高齢のため」2人、25.0%、「病気やけがのため」1人、12.5%である。きょうだいの世話は幼いため、母親や祖父母は病気や高齢を理由にケアしている。

・ケアをしている年数は、「1年」1人、12.5%、「2年」1人、12.5%、「3年」1人、12.5%、「4年」1人、12.5%、「7年」1人、12.5%、「8年」1人、12.5%である。

ケアしている年数は多様であるが、ケア年数が、7年、8年に至っているなど、小学生の時から長期間ケアしているヤングケアラーがいることもわかる。

②ケアすることによる影響

・学習や生活面に影響がある生徒は3人、37.5%、影響がない生徒は3人、37.5%である。ヤングケアラーの4割近くが学習や生活面に影響が出ている。

・ケアすることによって影響が出ている生徒の属性(どのような生徒か)

家族構成は、母親2人、25.0%、父親1人、12.5%、きょうだい3人、37.5%、祖母1人、12.5%、祖父1人、12.5%である。ケアしている人は、母親1人、12.5%、祖父1人、12.5%、祖母1人、12.5%である。ケアしている理由は、「まだ幼いため」2人、25.0%、「高齢のため」1人、12.5%、「病気やケガのため」1人、12.5%である。

ケアすることによって影響が出ている生徒の家族構成やケアしている理由は多様であり、一定の傾向はみられない。

・学校の先生や周りの大人に対して支援してほしいことは何か

中学1年生1人中0人、2年生は1人中1人、3年生は5人中1人が支援してほしいことがあると回答している。「支援してほしい内容」については、2年生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」、中3年生は「わからない」1人となっている。

中学生になると支援してほしい内容について、学習面での支援のニーズが高まるのではないかと考えられる。

Ⅱ ヤングケアラー予備軍(ヤングケアラーになる可能性が高い生徒)を対象に分析

・ヤングケアラー予備軍は20人、全体に占める割合は11.5%である。ヤングケアラー8人とヤングケアラー予備軍20人を合わせると、全生徒のうち16.1%の生徒がヤングケアラー及びヤングケアラー予備軍であることが分かる。中学生は小学生のヤングケアラー予備軍6.9%と比べ多い傾向にある。

・ヤングケアラー予備軍の生徒は、ケアに対して不安を感じているか

「お世話をすることに不安がありますか。」で「ある」10人、50.0%、「ない」9人、45.0%、「無回答」1人、5.0%である。

中学生のヤングケアラー予備軍は、ケアに対して不安を感じている者が多く、小学生27.3%と比べ多い。

・ヤングケアラー予備軍について、ケアすることへの不安の内容は、

「何をしたいのかわからない」6人、30.0%、「自分の自由な時間が取れなくなるのではないか」4人、20.0%、学校を遅刻・早退してしまうのではないか」3人、15.0%、「眠る時間が足りなくなるのではないか」3人、15.0%、「これからどうなるのかよくわからない

い」3人、15.0%、「勉強する時間が取れなくなるのではないか」2人、10.0%、「友だちと遊べないことがあるのではないか」2人、10.0%、「習い事が思うようにできなくなるのではないか」2人、10.0%、「親やきょうだいが忙しくなるのではないか」2人、10.0%、「学校を休んでしまうのではないか」1人、5.0%である。

ヤングケアラー予備軍の半数はケアすることへの不安を感じており、不安の内容は自分の時間のことや学習のこと等多岐にわたる。

・ヤングケアラー予備軍のうち、ケアに不安を感じていない生徒は、ケアすることをどのように感じているか(対象者9人)

「お世話をしたら、その人が少しでも長生きできると思う」、「その人がこの先も生きていくうえで必要なこと」、「とても大変なことだけど大切なことだと思います」、「悪いことではないけど、自分の心と向き合うことができなくなる」、「支えてもらった人を次は自分が支えるという恩返しができる」、「自分にとっても大事なことだと思います」が、それぞれ1人、5.0%、「無回答」3人である。

ヤングケアラー予備軍であっても、ケアに不安を感じていない生徒は、ケアすることに対して正のイメージを描けていることがわかる。

・ヤングケアラーの生徒のうち、「普段の生活に悩みや困りごとがある」生徒はどれくらいいるか

・現在ヤングケアラーでないがヤングケアラー予備軍の生徒20人のうち、「普段の生活に悩みや困りごとがある」生徒はどれくらいいるか

20人中12人(60.0%)が悩みや困りごとがあると回答し、その内容は、中学1年生(7人)は、「友達関係」2人、10.0%、「学校の成績のこと」2人、10.0%、「自分に自信が持てないこと」2人、10.0%、「将来(進路)のこと」1人、5.0%である。中学2年生(5人)は、「自分に自信が持てないこと」3人、15.0%、「友達関係のこと」1人、5.0%、「学校の成績のこと」1人、5.0%、「自分のために使える時間が少ないこと」1人、5.0%、「自分が自由に過ごせる場所がないこと」1人、5.0%である。中学3年生(8人)は、「友達関係のこと」4人、20.0%、「学校の成績のこと」3人、15.0%、「自分に自信が持てないこと」3人、15.0%、「家庭の金銭のこと」1人、5.0%、「家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)」1人、5.0%である。

ヤングケアラー予備軍は、友達関係や、学校の成績のこと、自分に自信が持てないなどの悩みを抱えている。

まとめ：

ヤングケアラー4.6%とヤングケアラー予備軍 20 人を合わせると 16.1%であり、小学生と比べ多い。ケアしている対象は年少のきょうだいが多い。ケアしている年数は多様であるが、ケア年数が、7 年、8 年に至っているなど、小学生の時から長期間ケアしているヤングケアラーがいることもわかる。

また、進路、将来のことや自分に自信が持てず悩んでいる生徒が多く、長期間のケアで学習面の遅れが生じているケースもあると考えられるため、個別に対応する学習面でのサポートの重要性が高まると考えられる。

高校生

●ヤングケアラーについて、ヤングケアラーという言葉の認知度

・「ヤングケアラー」は、ヤングケアラーという言葉を知っていることがあり、内容もよく知っている」0 人、0%、「聞いたことはあるが、よく知らない」0 人、0%、「聞いたことはない」4 人、100.0%であった。

・「非ヤングケアラー」は、ヤングケアラーという言葉を知っていることがあり、内容もよく知っている」38 人、41.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」19 人、20.7%、「聞いたことはない」35 人、38.0%であった。

「ヤングケアラー」は「非ヤングケアラー」と比べ、ヤングケアラーという言葉の認知度が低い傾向がみられる。

I ヤングケアラーと回答した 4 名について

①ヤングケアラーは、誰をどのような理由で、どれくらいの期間ケアしているか

・お世話をしている人は、「きょうだい」2 人、50.0%、「母親」1 人、25.0%である。

・お世話をしている人の世話が必要な理由

「まだ小さいため」4 人、100.0%である。

・ケアをしている年数は、「1 年」1 人、25.0%、「2 年」1 人、25.0%、「4 年」1 人、25.0%、「無回答」1 人、25.0%である。小学生や中学生と比べ、長期間のケアは少ない傾向がうかがえる。

②ケアすることによる影響

・学習や生活面に影響がある生徒は 4 人、100.0%、影響がない生徒は 1 人、25.0%である（ただし、「影響がある」と「ない」の両方に該当すると回答した者が 1 名いるため、数値が総数と合致しない）。

・ケアすることによって影響が出ている生徒の属性(どのような生徒か)

家族構成は、母親 3 人、75.0%、父親 2 人、50.0%、きょうだい 2 人、50.0%、祖母 1 人、25.0%、祖父 1 人、25.0%である。ケアしている人は、きょうだい 2 人、50.0%、母親 1 人、25.0%、無回答 1 人、25.0%である。

・学校の先生や周りの大人に対して支援してほしいことは何か

1 年生は 2 人、2 年生は 1 人、3 年生は 1 人が支援してほしいことがあると回答している。「支援してほしい内容」については、1 年生は「特にない」2 人、2 年生も「特にない」1 人となっている。

Ⅱ ヤングケアラー予備軍(ヤングケアラーになる可能性が高い生徒)を対象に分析(10 人)

・ヤングケアラー予備軍は 10 人、全体に占める割合は 9.8%である。ヤングケアラー 4 人とヤングケアラー予備軍 10 人を合わせると、高校生の 13.7%がヤングケアラー及びヤングケアラー予備軍であることが分かる。

高校生のヤングケアラー及びヤングケアラー予備軍は、小学生と比べ多い傾向にある。

・ヤングケアラー予備軍の生徒は、ケアに対して不安を感じているか

「お世話をすることに不安がありますか。」で「ある」5 人、50.0%、「ない」5 人、50.0%である。

・ヤングケアラー予備軍で、ケアすることへの不安の内容は、

「何をしたいのかわからない」3 人、30.0%、「自分の自由な時間が取れなくなるのではないか」2 人、20.0%、「これからどうなるのかよくわからない」2 人、20.0%、「眠る時間が足りなくなるのではないか」1 人、10.0%である。

・ヤングケアラー予備軍でケアに不安を感じていない生徒は、ケアすることをどのように感じているか(対象者 5 人)

「あたりまえなこと」、「自分が全力で支えたいと思う」、「大変」、「とても大変で丁寧にしなければならないこと」、「無回答」がそれぞれ 1 人である。

・現在ヤングケアラーでないがヤングケアラー予備軍 10 人について、「普段の生活に悩みや困りごとがある」生徒はどれくらいいるか

10 人中 6 人(60.0%)が悩みや困りごとがあると回答し、その内容は、「将来(進路)のこと」4 人、40.0%、「家庭の金銭のこと」3 人、30.0%、「自分に自信がもてないこと」3 人、30.0%、「友達関係のこと」2 人、20.0%、「学校の成績のこと」1 人、10.0%、「自分のために使える時間が少ないこと」1 人、10.0%、「自分が自由に過ごせる場所がないこと」1 人、10.0%である。

高校生のヤングケアラー予備軍は、進路・将来のことが一番の悩み事になっている様子がうかがえる。

まとめ：

高校生のヤングケアラーは、ヤングケアラーという言葉の認知度が低い傾向にある。また、非ヤングケアラーもヤングケアラーという言葉で「聞いたことがない」者が多いため、ヤングケアラーはもちろんのこと、非ヤングケアラーも含めた高校生全員に対して、ヤングケアラーについて正しく知ってもらうための啓発、学習を行うことが緊急性の高い課題であることが示唆される。

ヤングケアラー及びヤングケアラー予備軍は 13.7%であり、小学生 12.6%と比べ多い。また、高校生のヤングケアラー予備軍は、卒業後の進路、進学に悩んでおり、個別の学習面でのサポートや進路相談が重要であると考えられる。さらに、高校卒業後のヤングケアラー支援の継続性についても検討することが重要である。

その他分析

分析内容：ヤングケアラー予備軍は、ヤングケアラーという言葉の認知度の違いにより、困りごとの有無に違いがあるのか。

分析結果

⇒分析結果は、エクセルシート 「6. 追加分析内容」

ヤングケアラー予備軍を母数として、ヤングケアラーという言葉の認知度と、「困りごとがある」と「困りごとがない」のクロス集計分析を行う。

小中生問 17、高校生問 18 について、回答 1～6 の人を母数として、小中は問 21、高校生は問 22 と 1)のクロス集計分析を行った。

1)小中は問 22、高校生は問 23 の「困っていることはありますか」について、回答肢の 1～11 までを「困りごとあり」のカテゴリーとし、12 の「困りごとなし」の 2 つのカテゴリー群と、小中は問 21、高校生は問 22 のクロス集計分析を行った。

ヤングケアラー予備軍の小学生で、「普段の生活で困りごとあり」で、「ヤングケアラーという言葉聞いたことがあり、内容もよく知っている」は 5 人、「聞いたことはあるが、よく知らない」は 3 人、「聞いたことはない」1 人であった。「普段の生活で困りごとなし」では、「ヤングケアラーという言葉聞いたことがあり、内容もよく知っている」は 1 人、「聞いたことはあるが、よく知らない」は 0 人、「聞いたことはない」1 人であった。

ヤングケアラー予備軍の中学生で、「普段の生活で困りごとあり」で、「ヤングケアラーと

という言葉聞いたことがあり、内容もよく知っている」は6人、「聞いたことはあるが、よく知らない」は5人、「聞いたことはない」1人であった。「普段の生活で困りごとなし」では、「ヤングケアラーという言葉聞いたことがあり、内容もよく知っている」は4人、「聞いたことはあるが、よく知らない」は3人、「聞いたことはない」1人であった。

ヤングケアラー予備軍の高校生で、「普段の生活で困りごとあり」で、「ヤングケアラーという言葉聞いたことがあり、内容もよく知っている」は3人、「聞いたことはあるが、よく知らない」は1人、「聞いたことはない」2人であった。「普段の生活で困りごとなし」では、「ヤングケアラーという言葉聞いたことがあり、内容もよく知っている」は1人、「聞いたことはあるが、よく知らない」は3人、「聞いたことはない」0人であった。

ヤングケアラーになる可能性の高い「ヤングケアラー予備軍」について、ヤングケアラーという言葉の認知度の違いにより、普通の生活で困りごとがあるかないかの違いを分析した結果、統計上有意な違いは見られないという結果を得た。

以上

島根大学法文学部法経学科 教授
一般社団法人ヤングケアラーサロンネットワーク 代表理事
宮本恭子